

学校だより し お や き

～明るいあいさつがある学校～

市川市立塩焼小学校 児童数 783名(5月1日現在)
令和7年5月 発行 NO.2
TEL 047-397-1231 FAX 047-397-1232

学校教育目標

命 はなまる！

かしこく 誇らしく ねばり強く

【めざす児童像】

- ・考え、判断する子
- ・自分も相手も大切にできる子
- ・運動を楽しみ、ねばり強く取り組む子

校長 吉田 直美

盛り上がったよ 1年生を迎える会

4月28日(月)、体育館で1年生を迎える会を開催しました。主催は代表委員会児童。各学年が1年生に楽しんでもらいたいという気持ちで、工夫を凝らした企画をしてくれました。



- 2年生・・・あさがおの種のプレゼント
- 3年生・・・学校でできる遊びの紹介
- 4年生・・・保健室やわくわくルーム等の紹介
- 5年生・・・主な学校行事の紹介
- 6年生・・・先生紹介

それぞれ、歌あり、寸劇あり、クイズありと、各学年の割り当て時間を有効に活用していました。1年生はどの発表にも興味津々。また、入場退場は、6年生と手をつないで手拍子の中を嬉しうれしがらみの表情いっぱい。エスコートする6年生は恥ずかしさもありつつ、しかし最高学年という姿でした。

子ども主体の、子ども発信の教育活動を推奨する塩焼小学校らしい行事になったと思います。全員がその場を盛り上げる主役として、それぞれの役割を全うしてくれたおかげです。さすが塩焼っ子です。みんなありがとう！

授業参観 懇談会への参加、ありがとうございました

4月18日(金) 授業参観がありました。

お子さんの様子をご覧になり、いかがでしたでしょうか。

全クラスがクラス替えをしましたので、新しいクラスとなり、今までと違う集団の中で、どの子どもたちも頑張っていたと思います。

また、午後の懇談会では、担任から学校経営方針を聞いたり、自己紹介をしたり(自己紹介をしたクラスもありました)、グループを作り、交流をしたりと、保護者の方との交流もできました。

新しい環境に慣れるのが早い子もいれば、周りの様子をじっくり見て、ゆっくりとその環境に慣れていく子もいます。その点は子どもも大人も同じです。夏休み前になると、だいだいどの子も新しいクラスに慣れてきます。それまでは、自分のことを自分でやることに精いっぱいで、環境への慣れ方はひととそれです。決して焦ることなく見守っていただきたいと思います。また、何事も心配しすぎず、お子さんを信じて、失敗は成長の種と考えていきましょう。



5月の主な予定

※予定は変更になることがあります。

1日（木）	短縮 4 校時日課 耳鼻科検診 1・3・5 年・さざなみ 2・4・6 年抽出児童	21日（水）	尿検査予備日① (欠席児童等の救済日)
2日（金）	妙典中プロック合同引き渡し訓練 1 年生通常日課開始	23日（金）	4 校時日課 1～4 年 13：15 下校 運動会前日準備 5・6 年 5 校時
7日（水）	運動会練習開始	24日（土）	14：30 下校
8日（木）	委員会活動② 5・6 年 尿検査	25日（日）	運動会
12日（月）	内科検診 1・3・5 年・さざなみ 教育実習生 2 名 6/6 まで スクールカウンセラー来校日	26日（月）	運動会予備日①
15日（木）	眼科検診 2・4・6 年・さざなみ 1・3・5 年抽出児童	27日（火）	振替休業日
16日（金）	心電図検査 1・4 年 運動会係児童打ち合わせ 5・6 年 6 校時	28日（水）	運動会予備日②
19日（月）	運動会全体練習 学校運営協議会	29日（木）	学校生活アンケート実施日
20日（火）	こころの劇場 6 年 14：00 開演 (劇団四季ミュージカル鑑賞)		5 校時日課 14：25 下校 ロング休みデー 尿検査予備日② (欠席児童等の救済日) 交通安全教室 1 年 9：35 安全な歩行 3 年 10：45 自転車の乗り方 内科検診 2・4・6 年



校長室に幼虫がいます

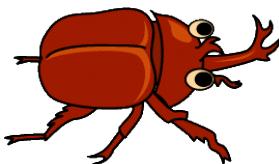
いま、校長室でカブトムシの幼虫を育てています。45 センチ水槽 3 つに全部で 30 匹ほどです。

神野藤教頭が前任校の大町小学校からもってきてくれました。

餌として、シイタケ栽培で使用する原木のようなものを活用しています。

カブトムシは、幼虫の時期にどれだけ食べて体を大きくするかで、成虫になってからの体格が決まるそうです。

校長室前の廊下に置いてあります。来校の際は、ぜひご覧になってください。



感情表現も教育の賜物

先日テレビを見ていたら、赤ちゃんの感情の成長について興味深い内容を放送していました。

喜怒哀楽のうち、「喜と楽」は教育によって身につくというものです。確かに、何に喜びや楽しみを感じるかは人それぞれ違いますよね。もちろん、「怒と哀」もそうですが、それ以上に「喜楽」はそうだと思います。赤ちゃんの話しかけに親が笑顔で応える、そのやり取りの繰り返しが、幼児期と児童期における感情発達に大きな影響を与えるそうです。「相手が自分に応えてくれる」という「快」の感情が人格を形成する一つの要因になる。私たちは、これを肝に銘じて子どもたちと過ごしていかなければと改めて感じました。